

## 「平成の藤十郎・中村鴈治郎」 近松劇の復活を目指して

歌舞伎俳優で人間国宝でもある三代目中村鴈治郎氏が、新しい時代の近松劇を創造するために、近松座を結成したのが昭和五十六年。以来、原作の精神を生かした舞台の創造、近松の二大傑作歌舞伎『けいせい仏はつの原はら』『けいせい壬生みぶ大念仏だいにんぶつ』の復活上演など、数々の実績を積み重ねて、歌舞伎界のみならず、現代の演劇界にも大きな影響を与えてきました。二十周年を迎えた平成十三年には、近松座による初めての海外公演となったイギリス公演を、大成功のうちに終え、シエークスピアの国に近松の名を刻みました。

鴈治郎氏は平成十七年には、念願であった「坂田藤十郎」の襲名が決まっています。藤十郎は、近松の盟友でもあり、上方歌舞伎にあつて「和事わごと」と呼ばれる、男女関係を中心にした柔らかな物腰の演技を創始した大人物です。その名を二百三十一年ぶりに受け継ぎ、今後一層の活躍が期待されます。